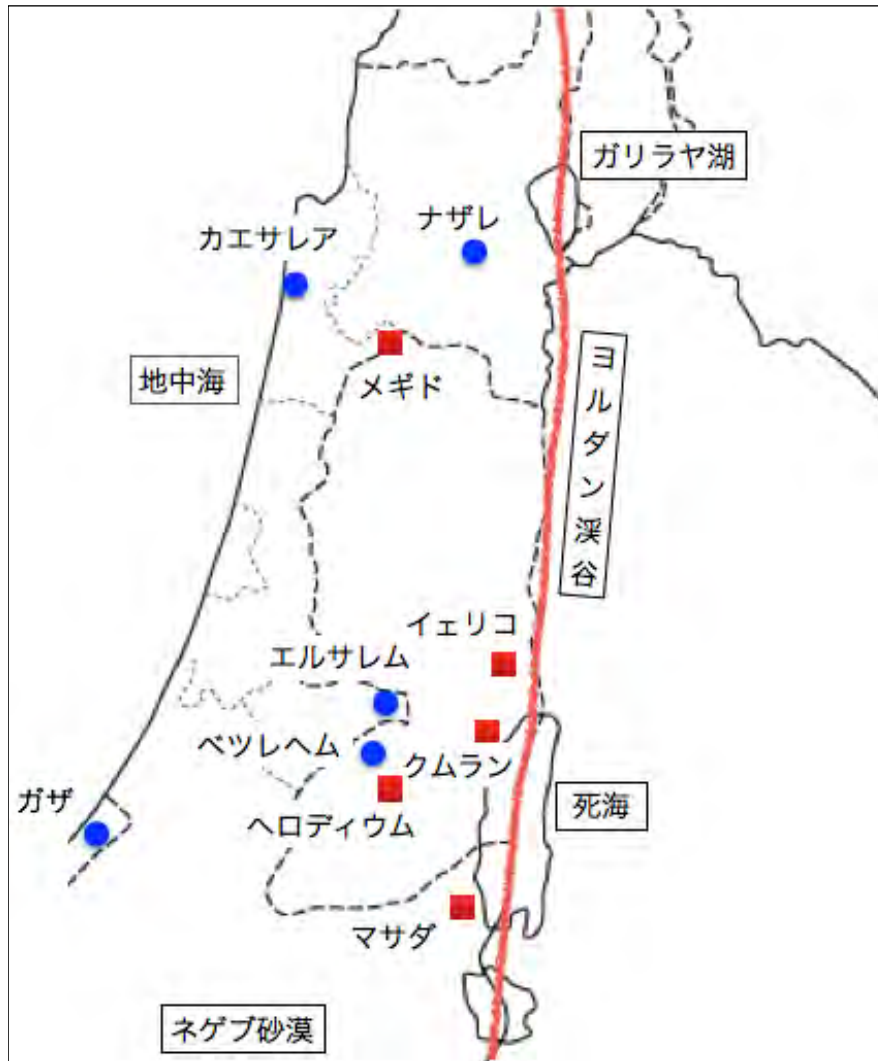


第8回 紀元前夜の大震災 - ユダヤのヘロデ王国と死海文書の世界

ユダヤ民族にとって神との「約束の地」であるカナンは、シリア・パレスチナ地域の古称である。現代も紛争・戦争の絶えないこの地域に暮らすユダヤ人、アラブ人、シリア人は苦難の連続であった。パレスチナ地域は地中海とヨルダン渓谷（地溝帯）にはさまれた南北に長細い地域を指すが、西方のギリシア・ローマ、北方のメソポタミア・ペルシアと南方のエジプトなど主要古代文明の結節点ゆえの特異な歴史的運命を背負ったのだ。



パレスチナ地域要図（ヨルダン渓谷に沿った太い線は地溝帯を示す）

もともと遊牧民族だったユダヤ諸部族がカナンに定着し、生活基盤を農耕へ移行したのは前12世紀だったという。しかし約束の地は決して安住の地にならず、ユダヤ人は前6世紀のバビロン捕囚に始まるディアスポラ（離散）と時の強国による迫害、それに対する抵抗を繰り返した。バビロン捕囚から解放されユダヤ人神政共同体が確立したのは、前5世紀のことだ。紆余曲折を経てアレクサンドロス大王後、ヘレニズム時代後期の前2世紀中頃ようやくユダヤ人神政国家が再興されたが、パレスチナ地域はこの頃カルタゴとの厳しい地中海覇権争いに勝利したローマ（共和政）の属領になる（前67年）。

それからの約半世紀、紀元が変わる頃までの歴史が人類史の転換にあたる。しかしそれは後代から見た歴史観であって、当時の庶民も歴史上の有名人物もこれを自覚していたとは考えられない。ただいえることは、苦難の民は間違いなく生きるということの意義、平和、隣人愛について深く考え、真摯に生と死に向き合っていたであろうことだ。

ローマが強大になり、パレスチナはポンペイウスからカエサル、アントニウスそして初代皇帝のアウグストゥス（オクタヴィアヌス）と直接交渉を持つほどの地位を保つ。その橋渡しをしたのが、傀儡政権のヘロデ王だった。ヘロデはユダヤ人ではなかったがめまぐるしく変わるローマの支配者に取り入って、ユダヤ人の神政国家をなんとかまとめ上げることに成功した。そのきっかけが、前31年の大地震である。ヘロデが王位について7年目にパレスチナ地域を襲った大地震で、多くの家屋が倒壊し、ヨセフスによれば約3万人の命が失われたという（ユダヤ古代誌）。この頃荒野でひっそりと厳しい規律の共同生活を営んでいたクムラン宗団（エッセネ派といわれる）の残した死海文書も前31年でその記述が途絶えており、キベト・クムランと呼ばれる宗団施設に被災跡が発見されたことから、ヨセフスの記述は正しいとされている。ヘロデ王の政治家として卓越した能力はこの大地震の際に発揮された。アラブ人と交戦中であったユダヤ兵士たちが震災で意気消沈しているところへ、「野外で宿営していたため無傷であった軍隊」の優位性を兵士たちに敢然と訴え、戦闘精神を鼓舞したのである。

ヘレニズム期のユダヤ人国家年表（参考図書をもとに作成）

年代 (BC)	パレスチナ地域のできごと	備考
142	ユダヤ、シリアから独立（ローマおよびスパルタとの同盟）	ハスモン家の支配（ハスモン王国）
129	戦争に反対するパリサイ派結成（ユダヤ教最大の党派）	対立するサドカイ派（保守勢力）
125	契約共同体クムラン宗教集団（エッセネ派）創設	死海沿岸部のクムランに本拠を置く
103	ハスモン王国がパレスチナの大部分を支配下におさめる	ハスモン王国の版図最大
67	ローマの将軍ポンペイウスが介入	ハスモン家のユダヤは独立を失う
63	ローマのユダヤ支配始まる	セレウコス朝シリアの滅亡
48	カエサルがポンペイウスを破り、ユダヤ人はローマの同盟者に	→カエサルの暗殺(BC44)
37	ヘロデ、アントニウスの援助でエルサレムを奪回	→ヘロデ王国（ローマ風の都市計画）
31	パレスチナ全域、地震に見舞われる（死者3万人） アクティウムの戦い（アントニウスとクレオパトラの敗戦）	→クムランの死海文書が中断 →プトレマイオス朝エジプトの滅亡
25	ヘロデ王、要塞都市（港）を改修しカエサレアとする	→パレスチナ沿岸最大の港に
20	パレスチナ全土がヘロデ王の版図に	→エルサレム神殿の再建工事始まる
4	ヘロデ王の死（イエリコ）、イエス生誕（ガリラヤ）	→パレスチナはローマ帝国に編入(AD6)

アラブとの戦闘に勝利したヘロデはローマの庇護者アントニウスの戦闘応援にいけなかったのも幸いして生き残り、逆にアクティウムの戦いに勝利したオクタヴィアヌスへうまく取り入ってパレスチナ支配を確実にした。ヘロデはローマ風の歓乐的なまちづくりを推し進めたが、それはユダヤ人たちの反発を買うことになり、やがて迫害と抵抗の繰り返しが行われた。その間、ヘロデの支配から逃れたクムラン宗団の動向はわかっていないが、宗団から独立したヨハネのような予言者がバプテスマ運動をはじめ急速に多くの民衆を引きつけた。前4年、ヘロデ王が亡くなった年、イエスが生誕した。その10年後にパレスチナはローマ帝国に編入され、ユダヤ人の離散、迫害が度を増すとともにバプテスマ運動は反体制的な性格を強める。キリスト教の生まれる素地がかたまりつつあった。前31年の大地震を契機として、たしかに人類の歴史が大きな転換期を迎えていた。

（参考図書）

- F.ヨセフス（秦剛平訳）「ユダヤ古代誌（5）」（ちくま学芸文庫）2000年
- T.H.Lim “ The Dead Sea Scrolls “（Oxford University Press）2005年
- J.アンバール/E.ヴィルヌーヴ（遠藤ゆかり訳）「死海文書入門」（創元社）2007年
- T.Mueller “ Herod - The Holy Land’s Visionary Builder “ (National Geographic) Dec. 2008
- 高橋正男「物語 イスラエルの歴史」（中公新書）2008年